

site

周辺に背の高いビルが建ち並び、都市に埋もれた「谷地」のような名山横丁。戦前から残る長屋群は、戦前から愛され続けたこのまちの風景である。



notation

追加の軒や補修のための素材が足し算されている長屋群。大がかりな更新の難しさ、その場しぎ・足し算の文化で今まで建築が維持されてきたことが分かる。



problem

燃えやすく、倒れやすい木造の長屋が群生することにより、建築単体だけでなく、エリア全体としての強度も下がってしまった。

landscape tracing

木密地域における長屋群の更新にあたって、現存の建築をそのまま残していくのは難しい。でも、全く違う風貌に様変わりしてしまうのも悲しい。引き継ぐべき風景の骨格とは何か。

- 転写される2つの風景 -

01 低層の長屋群が都市の谷地となっていること。

こんなに低かった？と毎回驚く。背の高いビルが多い中で、唯一このエリアだけが、昔から低く佇まい、ヒューマンスケール以下に近いくらい低さを感じる。



02 路地が100m続くこと。

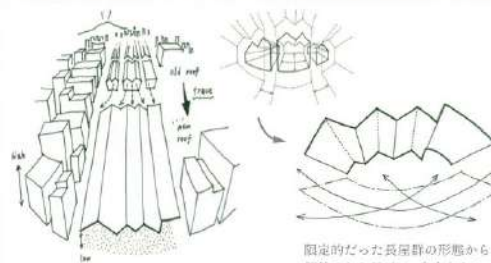
通りに正対して、ものに溢れた狭い道がずっと続く。それは、短くても、角度が振れていてもだめだと感じた。一直線な道でありながら、時にはものに邪魔されて蛇行して歩いたりもする。入しが強くないくらい狭いけど、歩きづらくはなくて、それがいい。



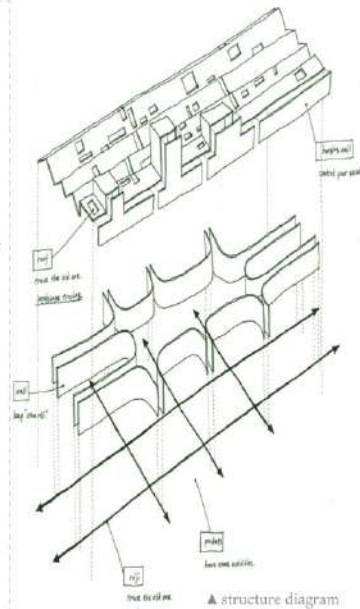
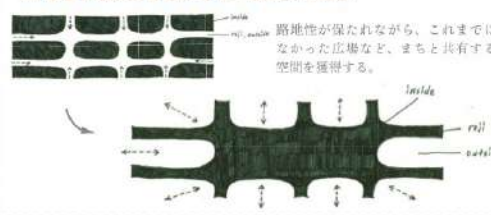
diagram

- 風景を転写するための2つの操作 -

01 現存の屋根をトレースし、エリア全体を覆う屋根をかける。



02 長屋と路地の反転により、路地を内部化



風景の転写

- 名山横丁における木密長屋の新しい更新 -

木密長屋の更新。

まちに愛された”風景の骨格を転写”し、木密の縛りから解放された、自由で新しい空間を目指す。豊かな芸術と文化に恵まれた鹿児島に、まちのプラットフォームとなるような文化交流施設の計画。

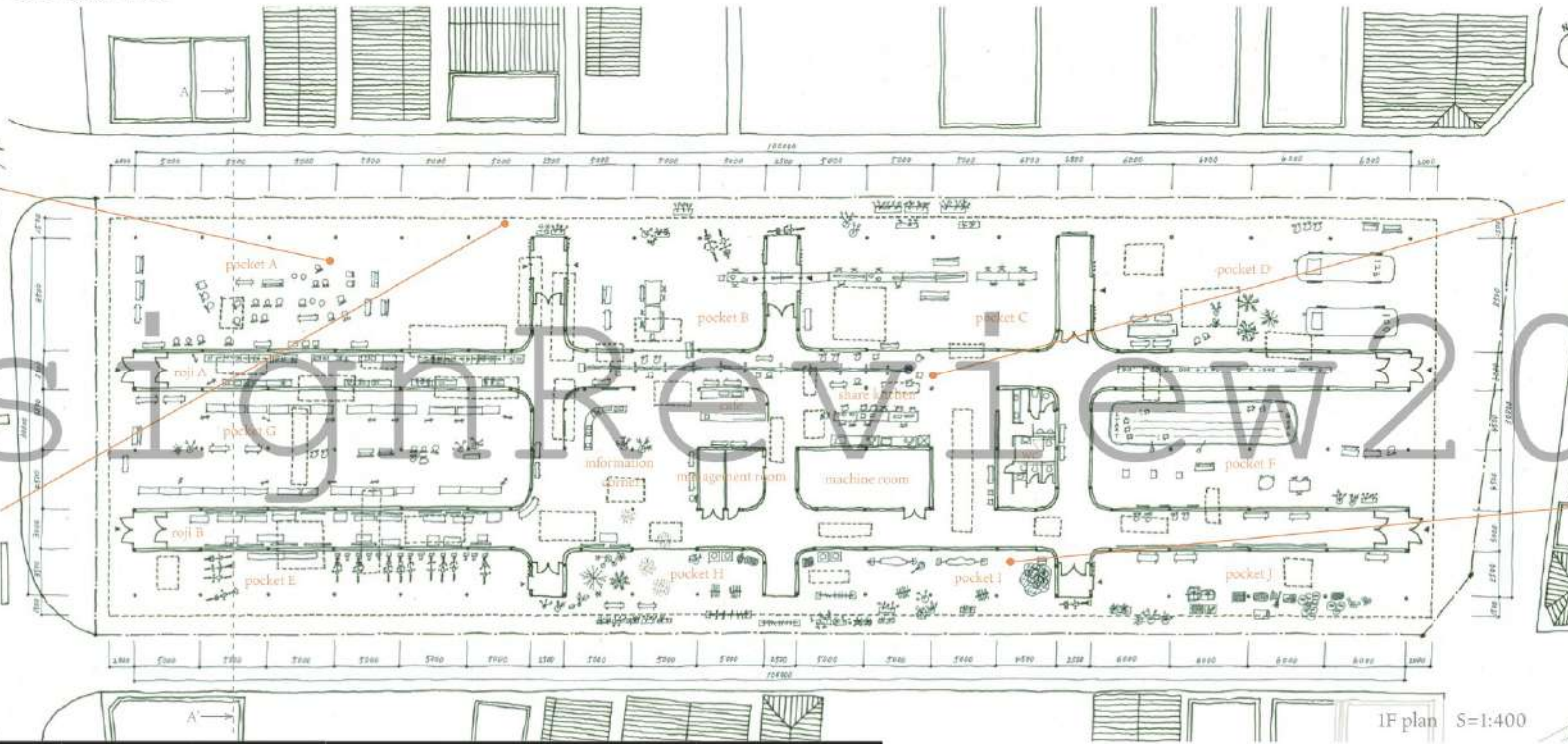


各分野の魅力がまちに分散する中、その中継地点としてプラットフォームのような働きをする「文化交流拠点」を提案。



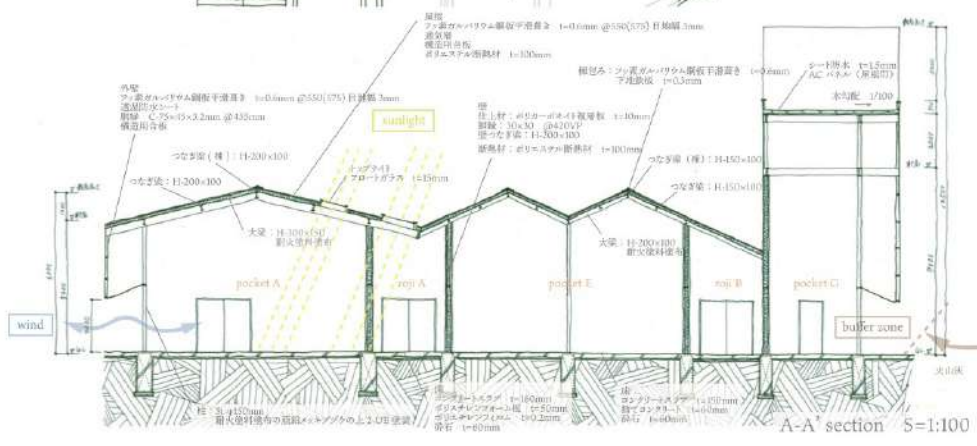
public viewing!!  
画面壁を利用した大きなモニターで、パブリックビューイングを楽しむ場に。

cleaning "火山灰"  
灰が降った次の日は、みんなで拭き掃除。鹿児島の文化。



share kitchen  
長い路地を生かして、鹿児島名物そうめん流しを楽しむ。

share laundry  
庭のない周辺の小さな家の住人が使う。雨の日も洗濯物を干せる。





Design Review 2020



# DesignReview2020



DesignReview2020

